# 福音新聞
THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教110～120周年
標　語
共に生きる
いのちの天幕を
広げよう

1963年9月20日　第3種郵便物認可（毎月一日発行）
2024年10月1日（火）第842号
発行所　福音新聞社（1部100円）
〒169-0051東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3202-5398 info@kccj.jp
発行人 / 梁栄友・編集人 / 鄭守煥
印刷所　青丘文化社


説　教

## 全地に満ちている神

＜詩篇８：１－９＞

田 一 光 牧師（水戸教会）

「名は体を表す」ということわざがあるように、私たちにとって名前はとても大切です。では、神はご自分を何と呼ぶように言ったでしょうか。出エジプト記を見ると、主なる神は、ご自身の呼び名を、「わたしはある」とおっしゃいました。神が人間に御自分の呼び名を「主」ではなくて、「私はある」と教えたのは、私はあなたたちの存在の源だよ、ということを伝えたかったのだと思います。お父さん、お母さんのように思ってほしいと望んだのです。神は私たち人間を愛して、深く交わりたい、と願っておられるからです。

今日の本文は、ダビデ王の詩です。神への祈りです。イスラエルの偉大な王が、主よ、私たちの主よ、と何度も呼びかけているんですね。２節、「主よ、わたしたちの主よ／あなたの御名は、いかに力強く／全地に満ちていることでしょう。天に輝くあなたの威光をたたえます」。富も権力も名声も全てを手にしたけれども、その全ての上に立つお方はあなたです、全てを支配するお方は神です、と告白しているのです。

神の御名が全地に満ちるとは、どういうことでしょうか。ただ名前があらゆる所に知られている、ということではありません。御名は存在です。全地に満ちているということは、この地のどこにおいても主がおられるということなのです。ある場所だけに閉じ込められている神ではありません。先に石や木や星があって、その後そこに神々が宿ったということでもありません。天地万物をお造りになった唯一の神が、天にも地にも満ち満ちておられるということです。そのご支配が及んでいないところはない、ということです。

その偉大なる神を覚えるとき、ダビデ王は自分の小ささ、人間のはかなさを感じているのです。宇宙の広大さや時の流れを思う時、信仰を持たない人であっても、自分の存在の及ばない大きな力を感じるものです。でもその大きな力を神とは考えないんですね。運気や霊は認めても、なぜか神を認めることができないのです。神がいない世界に生きるとどうなるでしょう。人が神の座を奪ってしまう、自分が神のように振舞うようになってしまいます。

現代社会において、人間は神のような存在になっています。人間には素晴らしい知能があり、感性があります。様々な科学技術が人の手によって生み出されました。どうして人間だけがこのような素晴らしい力を手にしたのでしょうか。それは、神がご自分に象って人間を造り、霊と力を与えたからです。この力はすべて神から来たのです。本文６節７節「神に僅かに劣るものとして人を造りなお、栄光と威光を冠としていただかせ、御手によって造られたものをすべて治めるようにその足もとに置かれました」。

しかしいくら能力があっても人は人です。神ではありません。神を主と覚えなければ、私達は自分の欲や感情によって、与えられた力や技術を乱用してしまいます。治めるどころか、周りを傷つけ滅ぼしてしまいます。これは権力のある人だけに限った話ではありません。家庭を治めること、人との関係を正しく作ることも、自分が神になっていてはできないのです。本当の癒しと平安は訪れないのです。

私たちが正しく心を治め、人間関係を平和に保つためには、何が必要でしょうか。真の神を知ること、その神を私の主として拝むことです。神は、ただ私たちを創っただけではありません。神は私たちに御自分の名前を教えて終わり、ではないのです。イザヤ書49章16節を見ると、私たちの名前を、御自分の手のひらに刻みつける、とまでおっしゃるのです。女が自分の乳飲み子を忘れるであろうか、と言うのです。神の目に誰ひとり見落とされる人はなく、忘れ去られる人もありません。信仰は、罪人である私を神が愛して下さっていると信じることです。主イエスの十字架の死と復活はまさに、神が罪人である私たちを完全に赦したこと、神の子どもとして新しいいのちを与えて下さったことの証拠です。

神に愛されていることを知ると、私たちはあらゆる恐れや束縛から解放されます。心が自由になるのです。だから５節の賛美が心から言えるのです。「そのあなたが御心に留めてくださるとは。人間は何ものなのでしょう。人の子は何ものなのでしょう。あなたが顧みてくださるとは」。どうしてこんなわたしを神が愛して下さるのか、神の憐みに驚くのです。神を主よ、父よと、呼びたくなるのです。 主なる神に造られた者として、主に選ばれた者として生きようとするのです。もっと深く主を知り、主の愛を味わいたくなるのです。 主を喜び賛美する者に、主はご自身の栄光を表わし、私たちの心に満ちあふれるほどの愛と喜びを注いで下さいます。私の心を正しく治める力を与えて下さいます。神が与えて下さった全ての恵みに感謝し、真の神を知る恵みが全ての人に注がれますように、お祈りします。


## 韓日対照讃頌歌販売

韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。
●B6版変型・1483ページ
●価格：2,500円
（消費税・送料込み）
※お求めは総会事務所へ

## 韓日対照聖書販売

各ページの左に韓国語（改革改正訳）、右に日本語（新共同訳）が掲載されています。
●A5版変型・1760ページ、革製
●価格：4,000円（消費税・送料込）
※お求めは総会事務所へ

## 在日大韓基督教会と日本基督教団
# 「協約」締結40周年記念集会

2024年９月16日（月）KCCJ・UCCJが「協約」を締結したKCCJ大阪教会において、40周年記念集会が開催された。申大永副総会長の司会と金必順牧師の演奏で開会礼拝が進められ、鄭詩温牧師と日下部遣志牧師が申命記７章６～８節を韓・日語で朗読し、関西連合聖歌隊の力強い特別讃美の後、雲然俊美総会議長から「共に歩み続ける神の民」の題目で説教があった。

聖餐式は張慶泰副総会長と藤盛勇紀副総会議長が司式を行った。記念発題では李清一牧師（在日韓国基督教会館名誉館長）と佐野通夫氏（東京純心大学教授）が、両教団の協約締結の経過と背景が語られた。次世代によるミニ発題では李明忠牧師、新井由貴牧師、有住航牧師、老田新牧師から両教団での体験や取組、課題が提起された。

閉会礼拝は黒田若雄総会書記の司会でマルコによる福音書16章15節が韓・日語で朗読され、梁栄友総会長が「世界を抱いて宣教する教会」の題目で説教があった。

今回の記念集会においてはKCCJ事務局金柄鎬幹事、UCCJ事務局は網中彰子総幹事、道家紀一幹事をはじめとする多くの方の働きと支えがあったことを覚え、40年の積み重ねが新たな歩みに繋がることを信じ、神の導きと祝福が両教団にあることを共に祈り求めたい。

雲然俊美総会議長

梁栄友総会長

李清一KCC名誉館長

佐野通夫東京純心大教授

有住航牧師

李明忠牧師

老田新牧師

新井由貴牧師

## 特別寄稿　カナダ青年夏期修養会参加して

梁　ナ　レ（大阪教会）

今回、カナダでの青年イベントに参加したことで、多くの新しい友達ができました。最初の頃は、自分の英語力に自信がなく、他の参加者と話すことに少し緊張や不安を感じていました。そのため、積極的に会話に参加することが難しい時期もありました。しかし、イベントが進むにつれて、徐々に自分の緊張も解け、参加者同士の雰囲気が和やかになっていくのを感じました。その結果、言葉の壁を越えて、さまざまなバックグラウンドを持つ人々と自然に打ち解けることができ、深い交流を楽しむことができました。現在でも連絡を取り合っている友人がおり、いつか彼女らと再会できる日を楽しみにしています。

また、イベント期間中にトロントにある韓国系の教会を訪れる機会がありました。その際、教会の方々が私たちを温かく迎えてくださり、昼食に手作りのピビンバを振る舞っていただきました。みんなで食卓を囲みながら、日本と韓国の歴史的な関係や、その教会に通う人たちがどのような経緯でトロントに移住してきたのか、個々のバックグラウンドについて興味深い話を聞くことができました。私は在日韓国人の家族を持っており、自分のルーツや韓国の歴史に強い関心があるため、このような対話の時間は非常に貴重で、心に残る体験となりました。

さらに、教会の方々は私の個人的な背景や考えに対しても非常に興味を持ってくださり、私が抱える疑問や思いについて深く耳を傾けてくれました。そのおかげで、自分のルーツに対する理解を深めるだけでなく、教会という存在が自分にとってどのような意味を持っているのかを改めて考える良い機会となりました。教会は私にとって、学校や家庭とは異なるもう一つの大切なコミュニティであり、そこで過ごす時間が自分にとっての安らぎや心の支えとなっていることを再確認しました。

一方で、私が通っている日本の教会では、次世代を担う若い世代の数が減少しており、そのことが現在深刻な課題となっています。今回のカナダでの経験を通じて、教会が若者をどのように巻き込み、コミュニティを活性化しているのかを学ぶことができたのは、とても大きな収穫でした。今後は、私自身がこの経験を活かして、自分のルーツや信仰に基づいた活動を通して、もっと多くの人々とつながりを深めていきたいと思っています。そして、教会というコミュニティがこれからも活気に満ち、次世代にも引き継がれていくよう、できる限りの貢献をしていきたいと考えています。

## カナダ長老教会の在日宣教100周年を覚えて(2)

# 宣教師グレン・デイビス牧師インタビュー

グレン・デイビス牧師夫妻

### ３．在日大韓基督教会での奉仕について

**①在日大韓基督教会では、どこの教会にどれ位の期間、牧会されましたか？**

はじめに、1968年から５年ほど西南地方会の宣教師として、無牧の教会で説教したり、青年会のない教会で青年会を開いたり、佐世保にて伝道所を開きました。その後、１年ほどカナダに戻り、カナダにあるさまざまな教会を訪問し、在日大韓教会での宣教について話しました。1969年の春に日本の福岡に戻ってきました。1972年から78年まで福岡教会の牧師として牧会をしました。

**②在日大韓基督教会での奉仕で印象に残っている思い出、特別なエピソードがあれば、お聞かせください。**

韓国での語学勉強から戻り、福岡に住んでいたのですが、ある会議があり東京へ行った時のことです。呉允台牧師任から二つのことを与えられたのですが、一つは韓国名を대비수(大比秀)という名前をつけてもらいました。もう一つは韓国から戻ってきたばかりだったので、「韓国語が上手にできるだろう。今度の日曜日にうちの教会で説教をしなさい」と言われました。韓国語で説教をしたことがなかったので、その時、一所懸命準備しました。その時の説教題目は「罪の赦し」、「죄의 용서함」です。説教後に、東京教会の長老任にこう言われました。「気をつけなければならないことがあります。罪の発音は、죄ではなく죄です」。なぜそのようなことを言われたのかというとその長老任の名前が崔（최）さんだったのです。韓国語の発音は本当に難しいです。

他には、福岡教会にいた時に、ある会でいろんな話をして、冗談を言いながらある長老に軽いボディータッチをしました。カナダでは軽いボディータッチはフレンドリーなことです。ですが、その会にいた他の人から「牧師任、そんなことしてはいけません。長老任怒ってますよ」と言われたことがありました。文化の違いによる誤解ですね。

牧会の中で思い出にあることといえば、福岡教会で牧会を初めて、その一年が過ぎた時のことです。長老任たちが「牧師任、祈祷会がしたい！」と言われました。「すでに水曜祈祷会があるじゃないですか」と私が言ったら「違います。早天祈祷会です」と長老任たちから言われたのです。そこで私は皆さんに、何のために祈りたいのかと聞いたところ、青年のために祈りたいと言われました。青年たちは韓国語もあまり知らない、そして教会にもなかなか来ないからこそ、青年を覚えて祈りたいと言われました。日曜日も休みなく毎日、早天祈祷会をしました。その後のカナダに帰った後、1985年に教会へ訪れた時、青年会にいた人のうちに３人が執事になっており、１人は牧師になったことを知った時はとても嬉しかったです。

グレンデビス宣教師 福岡教会委任式

学んだこともあります。西南地方会の牧師会が福岡教会であったのですが、会議後に在日コリアンの問題などを話し合っていました。当時折尾教会の金榮植牧師任がそのことについて何か言われ、私は「それは私に何の関係があるのでしょうか」と言ってしまったのです。私は金牧師任の言われたことを全て理解したと思っていたのですが、そうではありませんでした。金牧師任は怒りながら「あなたはやはり外国人だ。関係なしに好きなように自分の国に帰ることができるんだから、帰りなさい」と言われてしまいました。その日、私の家に泊まっておられた熊本教会の金得三牧師任になぜ金榮植牧師任が怒ったのか説明してほしいと言いました。私は勘違いしてしまっていたことを知って、朝早く折尾教会へ向かい、金榮植牧師任に謝りに行きました。金牧師は浴衣姿のままで笑いながら私を家に迎え入れてくださり、私の謝罪を受けてくださいました。その後から私たちはとても良い関係を築くことができました。この出来事を通して、生まれた確執や問題はすぐに修繕することを学びました。

色々話しましたが、特に印象に残っていることといえば、李仁夏牧師任です。彼にKCCJ60周年に宣教基本政策のドラフトを英語に訳してほしいと頼まれました。私はそのドラフトを読んで、とても良い影響を受けました。それは、伝道と社会正義、この二つが福音に欠かせないことです。それまで私は、伝道中心だったけれども、社会正義と自由と和解は、伝道と同じく私たちにとって大切な責任であることに気付かされたのです。

私は、日本で15年間の宣教期間がありましたが、その中で私が人々に教えたことよりも教えられることの方が多かったです。

**③在日大韓基督教会での宣教を終えてカナダに帰国されたときは、どんな思いでしたか？**

1978年にカナダ長老教会の宣教部幹事へと呼ばれたため、カナダに帰国することになりました。その時子どもたちは小学生で友達が皆日本にいることもあり、カナダに帰りたくないと言っていました。

**④在日大韓基督教会の教友・長老・教役者に伝えたいこと等があれば、お聞かせください。**

続けて祈りを中心とする教会生活を大事にすることです。祈りは自分たちの家族のためだけでなく、日本にいる在日コリアン社会の正義と平和と和解のためにもぜひ祈り続けてほしいです。

グレン・デイビス牧師家族と
アンダーソン牧師家族

# 関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者101年
# キリスト者追悼祈祷会声明文

「その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』と言われた。」(ヨハネ福音書20章19節、新共同訳による)

関東大震災朝鮮人・中国人ジェノサイド（大虐殺）101年を迎え、わたしたちは今日ここに集い、十字架の主のみ前でその犠牲者を追悼し、その歴史を想起し、その意味を問い直す追悼祈祷を分かち合いました。100年目に当たる昨年2023年には、国会において野党議員によりジェノサイドの国家責任について質問が繰り返されました。しかし、政府側はひたすら「政府としては虐殺の事実を確認できない」の答弁を繰り返すばかりでした。1923年12月に、帝国議会でなされた大虐殺の国家責任についての質問に、当時の山本権兵衛首相が「熟考ノ上他日御答ヲ致ス」「政府ハ起リマシタ事柄ニ就テ目下取調進行中デゴザリマス、最後ニ至リマシテ其事柄ヲ当議場ニ愬（ウッタ）ヘル時モゴザリマセウ」と答弁して以来、国家責任は101年間、この国で放棄され、また社会は結果的にそれを容認することになりました。わたしたちキリスト者はこの101年の国家的無責任の現実に抗議し、この歴史についてキリスト教会が主に託された宣教責任を問い続けます。

あの101年前のジェノサイドはただ単に大地震のパニックのゆえに起こったことではありません。すでにその30年前から、侵略から国の独立を守ろうとした何万人もの朝鮮民衆を日本軍は「朝鮮暴徒／不逞鮮人」と呼び、「討伐」という名によって繰り返し虐殺していたのです。大日本帝国による数十年にわたる朝鮮への植民地（化）戦争と共に、朝鮮民族に対する敵意、差別、そして恐れに満ちた疑心暗鬼が深められていたのです。その中で「不逞鮮人」ヘイトが日本社会に広がり、遂に1923年９月の関東大震災ジェノサイドを引き起こすこととなりました。

わたしたちキリスト者は、そのような現実の中でどのように十字架と復活の主に服従したのかと、近代日本のキリスト教会の道を省みます。そして、悪霊のように広がる虐殺の狂気から逃げ惑う朝鮮人・中国人に対して、「自分自身を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい」という福音に従い、避難所にさえなれなかった教会の歴史的現実を深く懺悔します。

わたしたちは、今再び日本の政治が戦争への準備へと暴走しつつあることを深く憂慮します。戦争への道は、その社会に人々の心に敵意と差別、そして恐れの疑心暗鬼を掻き立てるからです。

わたしたちはこの追悼の時と場を分かち合いながら、主イエス・キリストの十字架を見上げ、「この傷ついた人の隣人はだれか」という主の御声を聞き、二度と同じ過ちをこの国と社会が起こさぬように、すべての敵意と差別、そして恐れの疑心暗鬼に抗い、乗り越える歓待と友愛の防波堤を築く宣教責任を担う信仰の決意を分かち合います。

復活の主よ、来てくださり、わたしたちを平和の霊で励まし、あなたのお働きにお導きください。

2024年９月１日

関東大震災朝鮮人・中国人虐殺101年追悼祈祷会
参加者一同

西部地方会

## 壮年会一日研修会を開催
### 「ビジョンが導く人生」全体主題の下

９月16日、神戸フルーツフラワーパークにて、2024年度西部地方会壮年会一日研修会が平野教会の金鍾権牧師を迎え開催された。

第一部の礼拝は、壮年会会長梁昌熙長老の司会で、“ビジョンが導く人生”という全体主題の下で「携帯と教会（霊的戦争）」（聖書：マルコ10：46～52、箴言16：9）と題する金鍾権牧師の説教があった。メッセージの後、後半ではスマホやインターネットを利用することの利便性とそれに伴う危険性を取り上げ、文明の利器をクリスチャンの分別力をもって使用することが強調された。昼食は皆でバーベキューを楽しんだ。

第二部は、白承豪長老の司会のもとで進められ、「ノブレス・オブリージュ」という題で講演が続けられた。「私達は、王なる神の子供であり、王族であるのでそれに応じた崇高な使命が与えられている。それは愛を伝え、愛を実践することである。」とのメッセージが伝えられた。また、日本におけるベトナム人青年たちの生き生きとした信仰生活が紹介された。その後ディスカッションの時間が持たれ、参加者の切実な証しも紹介された。研修会参加人数は多くはなかったが、皆の心が一つになる有意義な研修会であった。

（報告者　林英宰）

東京希望キリスト教会

## 金鐘基名誉牧師が召天
### 東京聖市化運動本部会長を歴任

2024年9月8日、東京希望キリスト教会の金鐘基名誉牧師が召天され、同教会にて具滋佑担任牧師の司式で葬儀が行われた（享年86歳）。

故・金鐘基牧師は1938年韓国の釜山で生まれ、1992年来日し、1997年から多摩キリスト教会の担任牧師となり、2009年その教会を隠退されたが2010年に在日大韓基督教会東京日暮里教会と合併し、東京希望キリスト教会となり、名誉牧師に推戴された。

その他、東京聖市化（Holy Club）運動本部の事務総長と共同会長なども務められた。

京都教会

## 韓大龍名誉長老が召天
### 京都信明学校理事長などを歴任

2024年９月９日、京都教会の韓大龍名誉長老が享年88歳で天に召され、京都教会において林明基牧師の司式で葬儀が行われた。

故・韓大龍名誉長老は1936年韓国で生まれ、来日して1956年京都教会にて田永福牧師から受洗、1979年長老に将立され、2006年定年隠退と共に名誉長老に推進された。

その他、関西地方会の副会長、京都信明学校理事長、向上社保育園の園長など、生涯をかけて京都教会のために仕えられた。